

第 24 期日本学術会議健康・生活科学委員会看護分科会 第 3 回会議（概要版）

開催日時：2018 年 4 月 23 日（月）16：00～17：50

場所：日本学術会議 6-C（1）会議室

出席者：片田（司会）、小松、多久和、寶金、浅野、井上、内布、太田、川口、田高、西村（記録）野嶋、菱沼、正木、南、山本、吉沢、綿貫（敬称略）

資料

- 1 第 2 回議事録（概要版）
- 2 第 2 回議事録（詳細版）
- 3 自由討議（メモは 4 月 4 日）
- 4 第 24 期分野横断的課題の候補
- 5 第 24 期の第二部査読体制
- 6 第二部報告
- 7 日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会（メールアドレスつき）
- 8 看護学分科会（24 期）（平成 30 年 4 月 18 日現在）
- 9 日本学術会議 健康・生活科学委員会看護学分科会（班・他分科会所属状況）
- 10 20180324 第 1 回高度実践看護班会議議事録
- 11 JANA との共同主催シンポジウム「高齢化社会の Unmet 健康ニーズに対応する高度実践看護師」（案）
- 12 上記チラシ
- 13 地元創成看護班（議事録）
- 14 地元創成看護班議事次第（4 月 23 日）
- 15 『学術の動向』特集 2 企画案
- 16 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同分科会の設置について：少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会
- 17 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会構成メンバー

【議題】

（1）4 月 3・4 日開催の学術会議総会について

第二部に出席した小松委員より、下記が報告された。

・資料③④⑤をもとに、第 24 期に強調して取り組まれる分野横断的な課題の候補、および第 24 期の第二部査読体制等が紹介された。

・資料⑥をもとに、第 24 期が始まってからの第二部の活動が報告された。

・寶金委員より、厚生労働省から、認知症に対する医療政策に関して日本学術会議に説明が求められたこと、日本学術会議では今後、軽症認知障害について議論を進め、それをオレンジプランへと提言していくことが意見として述べられた、と報告された。

（2）24 期看護学分科会委員、および各班のメンバー構成について

・資料⑦⑧⑨をもとに、構成委員が確認された。現状の報告であるため、特に班の委員構成については、今後も変更等があれば報告して欲しい。

（3）年間計画について

下記の日程および場所で開催されることが決定した。

・9 月 10 日（月）18：00～20：00 慶應義塾大学信濃町キャンパス

・2 月 15 日（金）16：00～18：00 日本学術会議

#### (4) 各班からの報告

##### 1) 高度実践看護班

・日本看護系学会協議会（JANA）との共同主催シンポジウムを企画したこと、および JANA 理事会へ依頼したことが報告された。

・片田委員長より、JANA から共同主催の了解を得たこと、および要検討事項について、資料⑩をもとに報告された。

今後は、JANPU へ(共催)依頼をする予定である。

##### 2) 地元創成看護班

・24 期の班の目標として、看護系大学が、それぞれの「地元」のもつ課題に取り組めるようになることを目的とする。（資料⑬を参照）

・公開シンポジウム（平成 29 年 12 月 17 日）が、『学術の動向』（6 月発刊）の特集 2 として掲載されることとなった。構成は、資料⑮の通りであることが報告された。

・看護学分科会前に班会議を開催し、「地元」の切り取り方について議論したことが報告された。

##### 3) ケアサイエンス班

・小松委員より、資料⑯をもとに、「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」が設置され、現在の構成メンバーは資料⑰の通り 7 名（看護学分科会からは 5 名）であることが報告された。

・資料⑥の通り、4 月 3、4 日の幹事会で設置が承認され、4 月 27 日の幹事会で構成委員が決まる予定である。

・今後、看護学分科会のケアサイエンス班と「少子高齢社会にけるケアサイエンス分科会」との関係を検討していく。

以上